

# IMAJ


NEWS NO.101

## 特集 正直さと勇気

例え小さなことでも自分に、あるいは他の人たちに正直になることにはそれなりの勇気が必要です。しかし、心の声に従い、正直になって行動を起こすと、心も軽くなり、又、思っていなかったような良い結果に結びつくことも多いことを皆様も経験されていることと思います。今回は、4名の方々から『正直さと勇気』に関連したテーマで、体験されたこと、又、考えられていること等を書いて頂きました。

### 『正直と勇気』

相馬 雪香



何という重苦しい年末を送り、新しい年を迎えねばならないのだろう。平和を念願するのは裏腹に世界各地で毎日のように血なまぐさい情報ばかりが蔓延している。だが、それも他人ごとのように呑気な生活をしている自分を情無いと思う。地球の中の一員で

ある日本の私たちであるのに、そうした現実が、兎角忘れられているというか、日常の考えの中に入っていないことに気づかずにはいられない。

一方、国内的には何とも情無いニュースが次々と報じられ、何のことは無い、一寸正直で勇気があればいいのと思うような出来事の連続です。自分本位の考え方が蔓延して、考えられないような忌まわしい事件が報じられています。

正直と勇気があれば、あのようなことにはならない

のに、と他人ごとのように言うのは簡単ですが、自分のこととなるとそうはいかないのではないのでしょうか。

正直になる為に勇気が必要だと感じたのは、MRAに出合った最初の時でした。新しい生き方をしようと思い、その第一歩として静かに考えた時、思い出しました。1932年、イギリスでのことです。当時、円とポンドの相場がちよくちよく変わる時でしたが、父から貰う小使いをポンドに変えるのが私の役目、自分の方に都合のいいレートで姉に渡していた時のことです。何年も前のことでしたが、姉に正直に謝るのには勇気が要りました。しかし、その謝罪の体験は私に心の自由を与えてくれました。

私たちに直接関係のない血なまぐさいテロの現状が報道されても、兎角、目をそらしてしまっていることが多い私です。考えても仕方がない、私一人には何も出来はしない、思い過しはほどほどにという囁きも聞こえてきます。

一方、今、私たち日本人にとっても一番気になって

#### ■主な内容■

- ◆特集『正直さと勇気』・1-4
- ◆IC/MRAワールド・ニュース・10
- ◆CRT日本委員会ニュース・5-6
- ◆IC/MRA国際会議のご案内・11
- ◆第25回関西MRA秋季大会報告・7
- ◆その後の日韓対話プロジェクト他・12
- ◆IC/MRA世界連絡調整会議参加レポート・8-9
- ◆事務局便り・12

いるのは北朝鮮に拉致され、日本に戻って来られた方たちのことでしょうか。どうにもならない苛立ちを覚えるのは私一人ではないでしょう。またしても一人の私に何が出来る？と思ひ乍ら、深く考えずに過ごしている毎日が申し訳ないという囁きが聞えてきます。

一晩中、夢うつつに考え続けていた朝、カンボジア・プノンペンの兼松恵さんからEメールが届きました。

インドのパンチガーニのIC (MRA) センターでの会合以来、いくつかの班に分れてアジアの各国を廻っていたアクション・フォー・ライフのメンバーたち（その一部は6月の小田原会議にも参加）に招かれて、マレーシアで開催されたIC (MRA) アジア太平洋青年会議 (APYC) の若い人たちに加わったカンボジアの人のことを知らせて来ました。APYCの活動を通して「自由と責任」の大切さを学んだこと、さ

らに自分の生活の中で「どんな時にでも人に心を与える」と心に誓ったことを知らせて来ました。もの事を自分本位に考え、心を閉ざし、人を責めることなどを止めることなのだなどと教えられました。今日からでも始めることが出来る、「日々新た」という格言を身近に感じながらこの一文を書いております。又、近々カンボジアで「農業に携わる人々の話し合い」が開かれることも知らせて来ました。この原点は、1988年に二人のオーストラリアの青年がポルポト時代に荒らされた米作りを再興しようと決意したことによるものだという事を、最近知りました。心さえ自由であれば、いつでも誰にでも必要なことを始めるチャンスがあるのです。自分の事許り考える自己中心に陥ると苦情専門の鬼の餌食になってしまうのです。正直と勇気は新しい生命を与えてくれるのではないのでしょうか。

(国際MRA日本協会名誉会長、難民を助ける会会長)

## 『自分の心に正直に』

高柳 静江



今、私が母親心理学訓練講座の講師をさせていただいているのは、故山崎房一先生や多くの人達のお陰です。10年前、それは私にとっては勇気ある決断でした。ごく普通の主婦として子育てを通して様々な悩みを抱えた日々を送っていました。

20年前母親講座に出会い、受講。師からの教えや、そこで出会った多くのお母さん方と悩みを共感し合い、共に学び、過ちを許され育てていただいたお陰で、悩みから解放され自分の内に幸せを発見し、生きる力を与えていただき、自信を得ることができました。学んでいくに従って、私の中に「自分だけ幸せになって、それでいいの?」「お世話になりました。さようなら」それで平気なの、と内なる声が自分と向き合わせました。人は家庭環境が人格形成に大きな影響を与える。家庭の中の個人が幸せを肌で感じ、心の安らぎがなければ、社会や世界の平和はありえないのではないか、私が出会った人達や社会に育てていただいて今の幸せがある。この感謝の気持を表し、社会にご恩返しをしなくてはいけないのではないか、と目覚めました。

私のささやかな経験・体験がお役に立てるならと思ひ、講師になることを宣言することで自分を追い

詰め行動に移していきました。勇気を必要とする時、最大の力を与えられたように感じました。

それから10年、母親講座で出会う皆さんから沢山教えられて育てていただいています。子育てをしながら、自分の生き方はこれでいいのかしらと疑問を感じ、迷い、しかし、勇気を出して扉を開いてこられたお母さん方。私が学んだことを具体的にお話しし、方向を示してあげるだけで、その方たちも、自分の誤りを直視され、その気持ちに打ち勝つことで積極的に実行され、安らぎある家庭作りへと努力されるようになっていきます。そこから学ばせていただいたことは、家庭という小さな組織も社会という大きな組織も人間関係から成り立っていることには変わりなく、その人間の生き方が古い信念や習慣、理論にとらわれていると相手の人生に介入し、不安や不信を抱かせてしまうのではないかということです。大人である私達が古い価値観を勇気を持って改革していくことが問われているように思われます。

私は今、人生の貴重な体験をさせていただいていることに感謝しています。

(母親心理学訓練講座講師)

## 『正直さと勇気』

橋本 徹



最近、内外で不祥事が相次いでいる。その多くは、小さな不正から始まっている。最初に起こった小さな不正を隠蔽したために、不正が雪だるま式に拡がり、ついに発覚した時には大きな不祥事になってしまっていたというケース

が多い。最初に、勇気をふるって、正直に告白しておれば、大事に至らなかったかも知れないのにと残念でならない。

「正直」であるためには、「勇気」が要る。しかし人間は弱いものである。自分の不利益になることは隠そうとする。そうすることが他人にとって不利益をもたらすような場合にもである。このような人間の弱さについて、聖書は一つの典型的な事例を記している。

イエスはユダヤの祭司長たちや民の長老たちによって捕らえられ、十字架につけられるのだが、その前に、弟子たち、就中ペトロの離反を予告された。マタイによる福音書第二十六章三十一節から三十五節に次のように書いてある。

〔そのとき、イエスは弟子たちに言われた。「今夜、あなたがたは皆わたしにつまずく。……するとペトロが、「たとえ、みんながあなたにつまずいても、わたしは決してつまずきません」と言った。イエスは言われた。「はっきりしておく。あなたは今夜、鶏が鳴く前に、三度わたしのことを知らないと言うだろう。」ペトロは、「たとえ、御一緒に死なねばならなくなっても、あなたのことを知らないなどとは決して申しません」と言った。〕

ところが、いよいよ本当にイエスが捕らえられると、イエスの予告どおり、ペトロは、イエスを知らないと言うのである。(マタイによる福音書第二十六章六十九節～七十五節)

〔ペトロは外にいて中庭に座っていた。そこへ一人の女中が近寄って来て、「あなたもガリラヤのイエスと一緒にいた」と言った。ペトロは皆の前でそれを打ち消して、「何のことを言っているのか、わたしには分からない」と言った。ペトロが門の方に行くと、ほかの女中が彼に目を留め、居合わせた人々に、「この人はナザレのイエスと一緒にいました」と言った。

そこで、ペトロは再び、「そんな人は知らない」と誓って打ち消した。しばらくして、そこにいた人々が近寄って来てペトロに言った。「確かに、お前もあの連中の仲間だ。言葉遣いでそれが分かる。」そのとき、ペトロは呪いの言葉さえ口にしながら、「そんな人は知らない」と誓い始めた。するとすぐ、鶏が鳴いた。ペトロは、「鶏が鳴く前に、あなたは三度わたしを知らないと言うだろう」と言われたイエスの言葉を思い出した。そして外に出て、激しく泣いた。〕

ところが、そのペトロが、後にイエス・キリストの使徒として、いかなる迫害にも屈せず、イエスを神の子として、また救い主として証していくのである。弱かったペトロが何によってそのような「勇気」を持つに至ったのであろうか。それは、ペトロが、復活したイエスに出会い、イエスが真に神の子であり、人間の罪を贖う救い主であることを確信したからであろう。つまり、信仰がペトロを強くしたのだ。「神とともに居ます」との確信がペトロに真の「勇気」を与えたのだと思う。

「正直」になるためには「勇気」が要る。そして、真の「勇気」は信仰によって与えられる。

私もクリスチャンではあるが、まだまだペトロのような「勇気」は持ち合わせていない。まだまだ信仰が足りないのだ。今後とも、一層精進していかなければならないと思っている。

(国際MRA日本協会会長、みずほフィナンシャルグループ名誉顧問)

## 「正直の頭に神宿る」

二宮 秀夫



新聞を開けば 政界、財界の不祥事のニュースが目にとびこむ今日このごろです。

そして政治資金規制法とか外部監査の強化とか商法の改正とか「企業行動憲章」の改訂とか色々と議論され実施されます。しかし、又、不正が発生する繰り返しです。一体

何が欠けているのでしょうか。昔から「真理は簡単」と言われています。解決のキーワードは「正直」です。一人ひとりの在り方が、企業の在り方であり国の在り方です。あるべき姿にするには、一人ひとりが正直になれば解決します。

どんな制度を造ってもそれを運用するのは人です。一人ひとりが「うそ」から解放されなければ、又、裏をくぐって事件を起こします。それが分かっている、いざとなると仲々正直になれないのが人間です。ここに「勇気」が必要です。

MRAの創始者であるブックマン博士は、「人之を聴く時神語りたまう、人之に従うとき神働きたまう」と言われました。又、日本の諺でも『正直の頭に神宿る』という言葉があります。人が良心の声に従い正直になろうとする時、正直に行動したら自分はどうなるだろう、世間はどう思うだろう、と恐れ惑い、色々と理由をつけて、やりすごしてしまいがちです。このとき、神の意思だからそれに従えば必ず神は見捨てないという信仰をもって実践する勇気こそが、全ての問題を解決する鍵となります。

このことについて私の体験をお話し申し上げます。

私は小田原で呉服商を営んでおります。店は安政二年創業で四代目でございます。昭和37年、37才の時、MRAアジアセンターが小田原に建設されました。当時、私は青年会議所の副理事長をしておりました。世界的な道德平和運動の本拠が小田原に出来るから青年会議所としても協力すべきであるということでMRAに出会いました。当時、我が店は社員を40名から140名に一挙に拡大し、大いに張切っているところでした。しかし、その時店員の中に今で言うセクハラ行為があり、この男子社員を解雇したことから労働争議が起こり頭を抱えておりました。いきりたっている若い従業員を変えさせようと思っていた時に、MRAは労働争議に大変効果があると聞き、利己的な動機から接触しました。そこで、人を変えるには先ず自分を変え

ることだと教えられましたが、自分は大変まじめであると自負しておりましたから、自分は変わる必要はない、従業員を変えて欲しいとお願いをしましたところ、一人の若い幹部社員が正直、純潔、無私、愛の絶対道義標準で自分を照し自分の行動を反省して、私に正直に内規を犯したことを打開け謝りました。それを聞いた私は大変自分の良心に響くものを感じました。自分はどうなのか、まじめな顔をしながら実は脱税をしていたということが心の中でピンピンと響きました。終戦後のどさくさで殆どの方がやっていたので、己だけではないと自分に言い訳をして良心をごまかしていたことに気がきました。正に良心に時効はないと気がきました。

そして勇気をもってこれを表に出し納税致しました。その時、恐れから解放されました。銀行の支店長もびっくりして、「お客様が皆こうなら支店長の仕事も楽になるのですが」と言われ、大変信用してくれるようになりました。あれほど恐かった税務署も恐くなくなりました。不思議なことに労使の険悪な空気もなくなり、紛争も解決しました。MRAこそが繁盛の秘訣であると確信するに到りました。神が働いたのです。

その後順調に発展し得意になっているうちに、昭和48年、一大試練に見舞われました。それは三店もの大型店の出店です。遂に競争に負け赤字に転落しました。その時5年前より着手していた、卸商業団地が完成しました。この事業は私が提唱して中小企業事業団の融資によって完成したものです。郊外に卸業を集め市内の混雑を解消し、卸業を発展させようとしたものです。赤字になると組合員を除名されます。せっかく苦心して完成させたものを利用せずに脱落とはと悩み、粉飾決算をする誘惑にかられました。静かな時間を持ち、良心に耳を傾けたところ、「いまこそお前の良心がためされている、正直にやれ」と語りかけて来ました。勇気をもって赤字決算を提出しました。しかし、県の指導部長から「規則では当然除名ですが、あなたは組合の思想的バックボーンなので、この赤字部門を閉鎖して頑張って下さい」と言われました。その結果、30年前に今でいうリストラを行い規模を縮小したことが、現在まで存続出来た理由になりました。

『正直の頭に神宿る』です。神が働くのです。この秘訣の勇気ある実践こそが今の混乱を正常にもどす唯一の方法だと確信します。(そびそ二宮社長)

## ▼▼CRT日本委員会ニュース▲▲

## グローバルCRT会長、ジョージ・ボイタ氏来日

去る11月10日～15日の間、米国から、グローバルCRT会長のジョージ・ボイタ氏(Mr. George Vojta)並びにグローバルCRT事務局長のスティーブ・ヤング氏(Mr. Steve Young)が来日しました。来日の目的は、日本における企業倫理や企業の社会的責任の今後の動向について、日本のビジネスリーダーや経済関係諸団体等の方々と意見交換を行うと共に、これら関係者の方々とCRTとの関係の強化を図ることでした。

CRTが世界において果たすべき役割について、ボイタ氏は以下のように考えています。

1. 世界経済の持続的発展を成し遂げるためには、発展途上国の貧困問題及び先進国の高齢化や少子化という社会問題が相互に関係するという事実を、まず経営者が認識することが必要である。
2. この双方のそれぞれが抱える問題の解決のためには、民間企業における投資が必要であること。政府の予算と比して民間セクターが占める割合は、格段に大きい。  
⇒つまり、発展途上国での民間企業の投資活性化に伴い、現地での雇用増大が図れる。  
⇒民間企業においても利益の増大に繋がり、所得や富の増大から高齢化や少子化の社会問題(年金問題)に解決の糸口が図れる。
3. ただし、これらのフレームワーク(システム)を機能させるためには、民間企業が株式市場から公正に評価されない限り、資本流入が困難である。
4. 従って、市場が公正に民間企業を評価するための手段として、民間企業においてCRTの原則や『自己評価及び改善プロセス』(SAIP: Self Assessment Improvement Process)の考え方がきちんと取り入れられているかどうか重要なポイントとなる。

ボイタ氏とヤング氏は、今回の滞在期間中、先般、CRT日本委員会最高顧問に就任された奥田碩日本経団連会長を初め、池田守男資生堂社長、室伏稔伊藤忠商事会長、植野道雄みずほコーポレート銀行専務、埴義一日産自動車会長、内田勲横河電機社長等の方々に会われました。また、かなり多くの方々から、今後の日本企業における企業倫理の浸透や不正防止のためには、理念だけでなく、具体的なアクション・プランが必要であるという意見が述べられましたが、その点に

ついてヤング氏から『自己評価及び改善プロセス(SAIP)』の説明がなされると、皆さん熱心に耳を傾けられ、これまで以上にこの問題に対する関心の度合いが増してきているように感じました。

11月11日には、日本経団連海外事業活動関連協議会主催による『コーポレートガバナンスボイタ会長講演会』が経団連会館で開催され、約70名のビジネスリーダーやビジネスマンが参加しました。そして、11月13日には、日本コーポレート・ガバナンス・フォーラム、早稲田大学産業経営研究所とCRT日本委員会の共催による『激震するコーポレート・ガバナンス～エンロン、ワールドコム、商法改正の衝撃～』のテーマでの講演会が、早稲田大学のキャンパスで行われ、約80名のビジネスマンや学生たちが参加しました。

又、11月14日には、NPO法人パブリックリソースセンター、モーニングスター株式会社、CRT日本委員会の共催による『グッドカンパニー・フォーラム2002』の講演会が青山ダイヤモンドホールで開催され、約280名の方々が参加しました。各講演会においてボイタ会長は、一連の企業不祥事後の米国における企業倫理や企業の社会的責任(CSR)への取り組みの動向、グローバル市場における企業行動のあり方に対するCRTの考え等について話しました。多くの参加者が真剣な眼差しで、ボイタ氏やスティーブ氏のスピーチあるいはディスカッションに耳を傾けていたことがとても印象的でした。

又、11月11日にジャパントイズ、11月12日



●日本経団連で講演するボイタ氏

には日本経済新聞社及び朝日新聞社のインタビューが行われました。ボイタ氏はこの記者会見で、経営者のモラルが更に悪化しており、いまこそ企業倫理やコーポレート・ガバナンスの原理原則に立ち返る好機だと強く主張されていました。また、MBAのカリキュラムの中に、お金儲けのテクニックだけでなく、企業としての信頼作りや社会的責任などを盛り込むことが必要であることも力説していました。なお、日本経済新聞には11月13日の朝刊に、ジャパントイムズには11月14日の朝刊にそれぞれ記事が掲載されました。

ボイタ氏とヤング氏を交えたCRT日本委員会の役員会では、今後のCRT日本委員会の活動について、活発な意見交換が行われました。その中でも特に、『自己評価及び改善プロセス (SAIP)』の日本企業による導入に向けての対応方法や、CRT一般原則や『自己評価及び改善プロセス (SAIP)』を取り込んだMBA教育プログラムを如何に多くの大学のビジネスコースに導入してもらうかといったテーマについての検討が行われ、今後、具体的なアクション・プランとして取り組んでいくことになりました。

日本経団連は、最近頻発した日本企業の不祥事を受けて、企業行動憲章の見直し作業に真剣に取り組んでおり、我々CRTの活動にも関心を示して頂いている



●左からボイタ氏、ヤング氏、金子尚志CRT日本委員会会長

様子が窺われ、誠に嬉しく思います。これまでCRT日本委員会の役員一人ひとりが地道に蒔いてきた種が、最近になってようやく芽を吹きだしてきたかのように思えます。今後、この新しい芽が枯れることなく成長し続けることができるよう栄養を与えることが必要不可欠であり、そのためにもCRT日本委員会役員が果たすべき責任は大きく、引き続き一致団結して、平成維新の幕開けに向けて邁進していけるよう切に願っています。

石田 寛 (CRT日本委員会アシスタント・コーディネーター)

追記 CRTのホームページも開設されていますので、是非ご覧下さい。

(<http://www.crt-japan.jp>)

## 第25回関西MRA秋季大会報告

晴天に恵まれた去る10月5日から6日にかけて、『21世紀を対話と和解の世紀にするために』のテーマで第25回MRA関西秋季大会が、大阪市のロッジ舞州で開催されました。今年は35名の参加者がありましたが、7名の中学・高校・大学生から高齢者まで参加され、MRAの考え方に賛同した仲間が色々な意見交換の出来る場として、家族の集まりのようなアットホームな雰囲気で開催されました。

今年は橋本会長を初めてお迎えし、MRAの考え方やこれからの方向性等、色々とお聞かせいただきました。若い人たちにはMRA事務局の石田氏の分かり易い解説と兄貴的な包容力のあるリードによりMRAとは何かを掴んでもらえ、経験豊かな先輩の発言を理解できるようになったと感想を述べた高校生がいたことが大きな成果になりました。

分科会では、特に初参加、そして若い方々に相馬雪香名誉会長が出演されたNHKのTV番組「人間悠々」のMRAについてのインタビューや読売新聞の記事を見てもらいながら、MRAについて学んでもらいました。又、『静かな時間』の意味を考えるため、8匹の羊の物語の絵本、『みんなおなじじゃつまらない』（こどものせかい 至光社刊）、を使用しました。朗読後、『静かな時間』を持ち、この絵本に出てくる8匹の羊のうち、自分はどの羊に当るかを話合いました。仲間はずれになった黒い羊、仲直りを提案する羊、自分はどの羊にあたるのか等、3つのグループに分れて話合いを持ちました。

ケニアのワンジルさんは、『静かな時間』の後、このような話をしてくれました。

「ナイロビで夜、強盗に襲われそうになった時、その強盗に自分の困っている状況を説明したところ、若い娘がこんな時間に、ろついてはダメだと逆に説教され、他の悪い人から守ってくれました。この体験から、悪いことをしたからといって必ずその人は悪い人であるとは限らず、何かの事情があってそのような行動を起こしたのであり、その人の良いところを引き出していくことが大切であると思いました。日常生活の中でも自分の考えと違う人を除外したいと思うような時にも、その人と自分との共通点を見出すことから始めて、一緒になれるように心がけています。」

又、鈴木氏からは、「神戸の震災で壊れた壁をめぐって隣人の中国人とのトラブルがあったが、無意識の内に、その人を差別していたことに気づいた翌日に、問題が解決した。チェンジとは苦しくて何とかして抜け出したいと思った時にできるのではないか」との話がありました。

次に若い方たちの感想をご紹介します。

「最初、話を聞いていて、正直、身の回りのことと全然関係ないと思い、僕に何が出来るのかと思ったが、羊の絵本を読んだころから、こんなこと身の回りでもあるな、自分にも関係があるなと思って、皆さんが話していることがわかるようになり、いい勉強になりました。」

(中学2年生男子)

「この大会にくることになって、最初、もっとむづかしく固苦しい会議だと思っていたのが、みんなが輪になって、思い思いに話をして、理解し合って行く話合いだったので関心を持てたのが良かった。また、来たいと思います。」

(高校生男子)

「私は父が韓国人で母が日本人なので、全体会議の日韓問題の話しを聞いて、興味深く大変役に立ちました。」

(高校生女子)

又、土曜日の夜には、埴生の宿、ふるさと他、懐かしい曲の数々を大津氏がハーモニカ演奏してくれました。

最後に大内さんの次の様な、観世流の謡いの披露があり、この会議を終えました。

「なにわ津の夕日が丘に同胞と集いて心の交流いたしそうろう、嬉しきかな嬉しきかな幸せかな同胞の幸せ幾久しく祈りてそうろう」

安川 雅章 記



●輪になって話し合う参加者たち

## IC/MRA 世界連絡調整会議参加レポート

石田 寛

今回の IC 世界連絡調整会議 (Global Consultation \*注1参照) は、世界 21ヶ国からの IC 関係者が 38 名参加し、1. イスラム圏の友人たちとどのように対話しサポートしていただけるか、2. アメリカと他の諸国間のより深い理解とお互いの責任感を共有するために我々の世界のネットワークをどう活かせるか、を主なテーマとして、去る 10月17日から24日までイギリスの IC ターリーガース・センター (Tirley Garth) で開催されました。

この会議に参加して強く感じたことは、多くの参加者がイスラムと非イスラムのカテゴリーにこだわりすぎており、世界で頻発しているテロ問題を解決に導くための具体的なアクションが考えにくい空気が会議場に漂っていたことです。そこで、私に発言の機会が与えられた際に、『この国際会議では、アカデミックなことを議論するのではなく、“悪” に対して、どう立ち向かうのかを、そしてピンポイントの対応策を真剣に考えることが必要ではないか!』とコメントしました。そして、机上での空論を避け、具体的なアクション・プランを立案し、実行することこそが、今世界から求められていることも強く主張しました。

そこで、各人が、これまで検討されている、或いは既に始動しているプロジェクトについて、国際評議委員会 (ICC\*注2参照) が把握できるようにするために、ワーキング・チームを組成し、具体的なプロジェクト・プロポーザル (提案) をするためにワークシートを作成しました。



●会議の参加者

その結果、22項目に及ぶプロポーザルが提出され、ほぼ徹夜状態で、各人が提出したプロジェクトを纏め上げました。

また、各プロジェクトについては、それぞれが責任を持って活動することが重要であり、ICC がこれらを全て管理するというのではなく、コーディネートして、ケアしていくことがポイントであると合意されました。つまり、今後は、各プロジェクトの責任者が ICC に進捗状況を報告し、ICC で他のプロジェクトとの関連性を探り、お互いに情報の交換や協力を図れないかを検討してもらいます。尚、このリエゾン (調整役) は、ICC メンバーのカナダのローランド・ガニオン氏 (Laurent Gagnon) が務めてくれることになりました。また、今回の会議の内容を纏めた要旨が発表されていますので、以下にご紹介致します。

### 世界連絡調整会議の内容の要旨

この会議に参加した一同は、IC/MRA を通して我々が共有する人生観と価値観が、我々相互の違いよりもっと重要であると改めて実感した。同時にお互いについてより良く知り、理解と知識を深めていく必要性をも認識している。

#### 1. 主たるテーマについての結論

- ・イスラム教徒と非イスラム教徒の人々がお互いを尊重し合いながら対話することを支持すると共に、イスラム諸国と非イスラム諸国の人々が相互に訪問するプログラムを支援する。
- ・昨夏のコー世界大会でイスラム圏の人々を含めて行った二回の会議を含め、IC/MRA が行ってきた文明



間の対話を更に積み重ねて行く。

- ・中東における友人たちとこの地域に深い関わりを持ってきた IC/MR Aの人々がこれまで築いてきた信頼関係のもとに、更に相互の対話を進めていく。
- ・世界に広がる IC/MR Aの仲間として、我々は、あらゆるレベルのアメリカ市民との関係を世界中で築いていく。
- ・ニューヨークにある IC/MR A事務局によってアレンジされる国連への訪問、又、国連諸会議へのより広い参加を通して、IC/MR Aと国連との関係の強化を図っていく。

## 2. その他の主なポイント

- ・IC/MR Aの個人、又、チームとしての能力と技能の向上を図りたいという要請に応じて作られた国際リソース・ネットワーク (IC/MR A開発チーム) を支援する。
- ・2003年11月にスタートする第2回アクション・フォー・ライフのプログラムを支援し、イスラム圏やアメリカからより多く参加できるように働き掛ける。
- ・コーでの訓練の手法の開発、すなわちIC/MR Aの適切な紹介の仕方を考えたり、コー・インターンの人々のリーダーシップの開発、そして、IC/MR Aチームのスキルの開発を促進する。
- ・国際評議委員会のメンバーとして、ニケター・イラル氏 (インド)、ラビンドラ・ラオ氏 (インド)、マイク・ブラウン氏 (オーストラリア) の3名が選出された。(任期2003年10月1日より3年間) 又、リチャード・ラフィン氏 (アメリカ) の任期の2年延長 (2005年まで) が決まった。

### 【注1：世界連絡調整会議 (グローバル・コンサルテーション)】

世界各地域から世代、男女等々のバランスも考慮し、各地域や国の IC/MR Aチームの推薦等をもとに選ばれた30名程度が参加し一年に一度開催される。世界連絡調整会議サポートグループのメンバーによって準備されたテーマについて話し合う他、新しい国際評議委員を選定する必要がある際には、ノミネートされた候補者から最も適当と思われる候補者を選ぶ役割を有する。

### 【注2：国際評議委員会 (Initiatives of Change International Council / ICC)】

世界の IC/MR Aがよりコーディネートされ、その力を発揮でき、ガラス張り、アクセスし易いものとするため、又、共有された IC/MR Aのグローバル・ヴィジョンを推進し、戦略を発展させると共に国際的なイベントの調整も図るべく、1999年7月に正式に発足させた。

現在は、

1. ローランド・ガニオン氏 (カナダ、IC/MR A専従)
2. ラジモハン・ガンジー氏 (インド、ジャーナリスト・作家)
3. リーナ・カトリさん (フィジー/インド、IC/MR A専従)
4. ピーター・ホーン氏 (南アフリカ、IC/MR A専従)
5. クレア・レゲットさん (イギリス、IC/MR A専従)
6. ジョセフ・カランジャ氏 (ケニア、弁護士)
7. リチャード・ラフィン氏 (アメリカ、IC/MR A専従)
8. ジョン・ウイリアムス氏 (オーストラリア、IC/MR A専従)

という8名のメンバーから成っている。

前述の世界連絡調整会議で候補者の中から選出され任期は3年。前回のアメリカでの連絡調整会議で、ノミネートされたメンバーから2001年からの任期、及び2002年からの任期となる各3名の評議委員を選出した。後述の『イニシアティブ・オブ・チェンジ・インターナショナル』の活動との整合性を図るため、この現在のICCメンバーから4名が新たに発足した『イニシアティブ・オブ・チェンジ・インターナショナル』の委員会メンバーとして、また、今年の9月30日までこのICCのメンバーであったアシュイン・パテル氏 (ケニア・公認会計士) も同委員会メンバーに加わっている。

# IC/MRAワールド・ニュース

## 世界のIC/MRA—最近の動き

### ■ スイス

#### ◇IC/MRA インターナショナルの発足◇

新名称やロゴ・マークの登録、又、色々な国際機関とIC/MRA諸機関との関係強化、特に国連との関係強化を図る等の目的で、各国で活動を行っているIC/MRAの国際的連合体として、『イニシアティブス・オブ・チェンジーインターナショナル(\*注3参照)』が、スイスを本部として本年4月1日に発足し、8月4日に第1回の総会が開催されました。早速ICという新名称やロゴ・マークの登録が行われました。当初の参加国は、アメリカ、イギリス、オーストラリア、オランダ、カナダ、スイス、ドイツ、フランス、南アフリカの9ヶ国のIC/MRA組織となり、現在他の国々も加入の検討を進めています。(日本も現在、加入の検討中です。)

委員会メンバーとして次の9名が選ばれ(\*印：国際評議委員会メンバー)、会長として、コメリオ・ソマルガ氏、副会長としてリチャード・ラフィン氏が、そして、会計の責任者としてアシュイン・パテル氏が選出されました。

- \*1. ラジモハン・ガンジー氏 (インド、ジャーナリスト・作家)
2. ジェームス・ホーリバン氏 (イギリス、IC/MRA専従)
- \*3. ピーター・ホーン氏 (南アフリカ、IC/MRA専従)
4. フィリップ・ラセル氏 (フランス、IC/MRA専従)
- \*5. クレア・レゲットさん (イギリス/ニュージーランド、IC/MRA専従)
6. アシュイン・パテル氏 (ケニア、公認会計士)
- \*7. リチャード・ラフィン氏 (アメリカ、IC/MRA専従)
8. コメリオ・ソマルガ氏 (スイス、コー財団理事長、前国際赤十字総裁)
9. リチャード・ウイークス氏 (カナダ、IC/MRA専従)

【注3：イニシアティブス・オブ・チェンジーインターナショナル】と国際評議委員会 (Initiatives of Change International Council/ICC) の役割の違い】

ICCは主にIC/MRAの内部の諸問題の解決のための手助け、IC/MRAに関わる人々のトレーニング、又、IC/MRAの短・長期的な展望等を図る等の、IC/MRAの内側向けの活動を重点とするのに対し、『イニシアティブス・オブ・チェンジーインターナショナル』の主な役割は、他の国際組織等との交流の母体となり、IC/MRAの活動の世界的な認知を図ったり、名称やロゴ・マークを国際的に登録して保護するというような対外的な活動の発展の促進を主な目的としている。

### ■ ケニア

去る1月のインドのグローバルHOHO会議に参加した多くのアフリカの参加者からクリーン・アフリカ・キャンペーンの必要性が唱えられました。その後、6月にナイロビで開催されたIC/MRA汎アフリカ会議で、アイデアが練られました。“アフリカ人の手でアフリカを変えていこう”とのテーマで青年指導者を訓練するプログラムを、このキャンペーンの一環として考えています。アフリカ各国のIC/MRAに関わっている青年25名を対象に、パイロット・コースを来年の10月に開催する予定です。(アミナ・ディカディ)

### ■ ガーナ

IC/MRA汎アフリカ会議が、来年の5月21日から27日までガーナ大学のホールで開催されます。主なテーマは、「良き統治の重要さ」、「市民社会における道徳的な責任とそれぞれの役割」、「家族に対するアフリカの女性のビジョン」、「アフリカの伝統的な統治法と政党民主主義の相似点とは？」等です。(ベン・カブラ)

### ■ パプア・ニューギニア

最近のパプア・ニューギニアでの普通選挙で選挙浄化運動を行ったIC/MRAチームは、これをクリーン・パプア・ニューギニア・キャンペーンに発展させたいと考えています。ケニアでクリーン・ケニア・キャンペーンをリードしたジョセフ・カランジャ氏からアドバイスを受けるために、来年4月に彼を招聘しています。(アラン・ウイークス)

### ■ インド

IC/MRAセンターのアジア・プラトリーに環境学習センターを併設しようという計画のため、去る10月にマハラシュトラ州の教育者と科学・開発団体関係者が集まりました。その結果、来年の10月に環境フェスティバルとワークショップを開く事になりました。これは、先住民の人々と村落のコミュニティーの習慣や伝統にハイライトを当てると共に、彼らの環境との相互依存関係を明示してもらおうというものです。

(バヌ・カレ/アラン・ポータイエス)

(上記、ケニアからインドまでのニュースはワールド・ブレティン 2002年12月号から抄訳したものです。)

## ▼▼ IC/MRA 国際会議のご案内 ▲▲

### ◇ オーストラリア・アジア・太平洋地域会議 ◇

オーストラリアでの国際会議が下記のように開かれます。ご参加のご希望やご質問等がありましたら、MRA事務局にお問い合わせ下さい。

- テーマ 『力を合わせて、より良い世界を築いていこう』
- 開催期間 2003年4月23日(水)～27日(日)
- 主催者 MRA-IC・オーストラリア
- 開催場所 オーストラリア・シドニー、コロレイ(Collaroy)センター、  
(シドニー中心街から35分の所に位置し、太平洋が眺望できる)
- 参加費用 一般：350オーストラリア・ドル(ツイン・ルーム、約23,000円)  
(他に50オーストラリア・ドル、約3,250円の登録料が必要)  
学生：180オーストラリア・ドル(キャビン・ルーム、約12,000円)  
(他に20オーストラリア・ドル、約1,300円の登録料が必要)
- 使用言語 英語

#### ■ 会議の目的

- ・ 和解のプロセスとコミュニティー構築の手法をより深化させること
- ・ この地域の協力と緊密化を図る為に活動する人々のネット・ワークの形成
- ・ 異なる宗教、文化を持つ人々との相互理解と信頼関係の強化

#### ■ プログラムの内容

オープニング・ディナー。全体会議と分科会。体験談の交換とグループでの話し合い。早朝静思。ワーク・ショップ。公開ミーティング(土曜午後)。夜間の楽しい催し等。

### ◇ 2003年 IC(MRA)世界大会 ◇

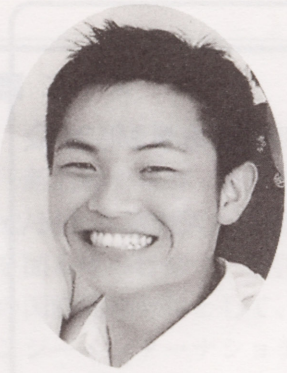
来夏のコーでは下記の6つの会議が開かれます。詳しくは、MRA事務局にお問い合わせ下さい。

#### 総合テーマ 『世界という我家～対立からコミュニティーへ～』

- |                 |   |
|-----------------|---|
| 7月 2日(水)～ 9日(水) | 責任感と奉仕の精神を備えたリーダーシップを求めて  |
| 7月11日(金)～15日(火) | コー産業人会議～人間を大切にするグローバリゼーションとは～   |
| 7月17日(木)～24日(木) | ファミリー会議 我家～対立からコミュニティーへ～  |
| 7月26日(土)～30日(水) | 世俗的な社会での精神的要素<br>～宗教は平和作りのためのパートナーとなりうるか?～  |
| 8月 2日(土)～ 8日(金) | 平和作りのイニシアティブ  |
| 8月12日(火)～19日(火) | 人間の安全保障を通じた紛争予防<br>(最後の会議の中で第7回コー政治円卓会議も開催される予定です)<br>又、2003年度はCRTグローバル会議もコー開催されます。 |

## その後の日韓対話プロジェクトについて

佐々木 敦



最近、在日コリアン（韓国籍・朝鮮籍）の方々にも我々のミーティングに参加して頂いており、彼らと共に、12月21日、早稲田大学のキャンパスにおいて、ICユースミーティングを企画しております。この時には、まず第一段階として、日本国内において中心と

なりうるメンバーの結束に力を注ぎたいと考えています。更に、12月末には韓国MRAの車光善氏（Dr.Cha）にお招き頂き、ユースメンバーの中から数名が、韓国MRAのユースミーティングに参加させて頂く機会を得ることができました。

これまでは我々の内部的な面を強くする感が比較的強かったかと思いますが、ようやく具体的な行動に移す時がやってまいりました。これらを通し、それぞれの立場や視点を共有し、理解しあい、共に何ができるかを探っていきたくと考えます。

個人的な話になりますが、11月19日から22日まで、ソウルを訪問しました。大学の教授や、政治家、

ジャーナリスト、また学生などと様々な話をする事ができました。今回の訪韓は、大統領選1ヶ月前ということもあり、その様子を見学するというのが主たる目的でした。事前学習として『韓国大統領伝』（池東旭著・中公新書）を読み、歴代大統領の背景についても学びました。

これらを通し思ったことは、決してすべての韓国人が日本に対する嫌悪感を抱いている訳ではないということです。むしろ日本と共に行動する事が大切であるという声を多く聞きました。お互いの認識がまだまだ甘い事、また東アジアにおいて日韓が手を組めば非常に大きな力となりうる事を多く話し合いました。しかしそこには様々な問題が複雑にからみ合っていることも同時に確認しました。特に日本の問題点として、元大統領の金泳三氏、ジャーナリストの池東旭氏などは、「最近の日本、特に学生には元気がない」とい

ことをおっしゃっておりました。未来に向け、少しでも我々が力になれるのであれば、「元気」をだして、少しずつでも行動に移していきたいと思えます。

（青山学院大学4年生）

## 恵子ホームズさん一行がナガランドを訪ねる

相馬 雪香

謝罪の行脚を続けておられるアガペの恵子ホームズさん（IMAJニュースNo.100参照）の一行は11月にインド東部のナガランド州の州都で、太平洋戦争の日本軍と英印軍の最後の激戦地であったコヒマを訪れ、ナガの人たちに迷惑をかけたことを謝罪された。一行のなされたことは非常に大きい意味があるということ。私にはナガの友人の手紙で知った。時あたかもナガランドを構成している幾つかの部族の和解を実現しようとしている時でもあるからだを書いて来た。また現地

の新聞は、「謝罪の行為が現実の政治に」と題して大きく取上げている。「コヒマの戦場には日本からもイギリスからも戦友を偲ぶ人たちが幾度か来ているが、今までに誰もナガの人たちに迷惑をかけたことを謝った人はいなかった」とし、さらに「不思議なことにナガの種族間の争いが事ある毎に再燃することに苛立ちを感じていたが、互いに許し、許されることの大切さを今回の一行の訪問で教えられたように思う。一行の方々に深甚な敬意を払いたい」とし、「一行の行動はクリスマス

の最上の贈物の一つに数えられるであろう」と述べ、「はるばるこの遠隔の地に迄、足を運ばれた信念に敬意を表したい」と述べている。

### 事務局便り

- ◆ 2003年度の第26回小田原国際会議は、6月13日（金）～15日（日）にかけて、『より良い社会作りのために～それぞれの能力を活かし、それぞれの責任を果たそう～』という来年の年間テーマの下、アジアセンター ODAWARA において開催される予定です。どうぞ予めご予定にお入れ下さい。
- ◆ 去る12月7日の通常総会と年末懇親会では、来年のMRA/ICの取り組みもうとする事業について熱心な意見が取り交わされました。正に年間テーマのようにそれぞれがイニシアティブをとってより良い社会作りのために貢献して行きたいものです。皆様どうぞお元気で良いお年を迎えられますようお祈りしております。来年も引き続き宜しくお願い申し上げます。